

年間第12主日

第一朗読 エレミヤ 20・10-13
第二朗読 ローマ 5・12-15
福音朗読 マタイ 10・26-33

2026.6.21

カトリック高円寺教会 9:30
ニティン・コエーリョ助祭(イエズス会)

兄弟姉妹の皆さん、おはようございます。

「ジミー」という30歳のアメリカ人がいました。彼は寝るとき、ベッドの下に怪獣がいると信じて恐れ、よく眠れませんでした。そこで、医者にご相談してみました。医者は「音楽を聴きながら寝てみてはどうですか」と勧めました。ジミーさんは「そうしてみます」と答えました。数ヶ月後、その医者が教会に行ったとき、ジミーさんと出会いました。「最近はよく眠れていますか」と医者が聞くと、「はい、よく眠れています。でも、音楽を聴いているからではありません」とジミーさんが答えました。「よかったですね。音楽ではないなら、どんな方法でよく眠れるようになったのですか」と聞くと、ジミーさんはこう言いました。「わたしね、最近日本語を学んでいるんです。そのために、日本の雰囲気を作るべく日本の番組ばかり見ていました。ある番組で日本の畳の部屋と、日本人が使う布団を見ました。そこから、わたしの部屋にも畳と布団を用意することにしたんです。ベッドを捨てました。その時から、怪獣が隠れる場所がなくなって、よく眠れるようになったんです」。

ジミーさんは恐れをなくすために、その源であるベッドをなくしました。しかし、いつでも恐れをなくせるわけではありません。恐れずに生活するためにいろいろな方法があると思いますが、ジミーさんのように原因を取り除くのも一つの方法です。

第一朗読には、もう一つの方法が示されています。エレミヤには彼に反対する人々がいました。エレミヤは自力でその人々から自分を守ることができないと感じていました。彼はその恐れをなくすのではなく、神にすべてを委ね、神を賛美しました。そうすることで、その恐れを自分の心から追い出したのです。

聖パウロは第二朗読で、わたしたちが恐れる理由は、復活されたキリストが取り除いてくださったと言っています。神の恵みと、復活されたキリストという賜物さえあれば、恐れることはない、というのが第二朗読のメッセージだと思います。

わたしたちはどうやって恐れをなくそうかと悩めます。しかし、キリストによれば、恐れることは何一つありません。なぜなら、父である神から隠れているものは何もありませんからです。空を飛ぶ鳥のことも、わたしたちの頭の髪の毛の数さえも、神はすべてご存知です。そんな小さなものにまで目を留められる神は、もちろんわたしたちの悩みにも目を留めておられます。子どもたちの将来の悩み、仕事の悩み、勉強の悩み、今日の昼ご飯に何を食べようかという悩み、SNS で変な写真を載せてしまったという悩みなど、すべてを神はご存知です。だからこそ、キリストはわたしたちに「恐れることは何一つない」と言われるのです。

説教を準備しながら、多くの殉教者たちのことを思い起こしました。長くなるので深くは話しませんが、殉教者たちは復活されたキリストを信じていたからこそ、死を恐れずに信仰を生き抜くことができました。今の時代にも信仰のために苦しむ人々があります。もちろん、日本で命をかけて信仰を守るようなことはないかもしれません。しかし、キリストの教え、例えば「隣人を愛すること」を実践しようとするとき、苦しみを感じることはあるでしょう。相手を愛しても、相手は愛を返してくれないかもしれません。そんなとき、恐れずにエレミヤのように、その苦しみを神に委ねるしかないのです。

目を閉じて、心の中でわたしと共に祈ってください。

「主よ、わたしはあなたの言葉を信じます。あなたがわたしと共にいてくださることも信じます。それでも、ときどき恐れることがあります。仕事のこと、学校のこと、家族のこと、友だちのこと、将来のことなどです。わたしたちのその恐れを、今あなたに捧げます。わたしたちの心を、あなたの心のように、恐れではなく愛で満たしてください。アーメン」。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>